

兵庫県のムシヒキアブ (Diptera: Asilidae) 相の解明に向けて —上郡町で記録したムシヒキアブ, ならびにオタネガワイシアブの記録—

大貝 秀雄¹⁾

ムシヒキアブは葉先などに静止して獲物を待つ習性を持ち、双翅目としては大型で、目につきやすい昆虫であるにもかかわらず、既存の図鑑類で同定可能な種は限られている。また多くの未記載種が残されているらしく、アマチュアにとっては意外に難易度の高いグループであり、それだけに興味深い。吉田ら (2009) は、兵庫県立人と自然の博物館と大阪市立自然史博物館の収蔵標本を中心に調査して、兵庫県の 32 種のムシヒキアブ科昆虫が分布することを報告した。しかし、近隣府県で記録された種で兵庫県未記録のものも少なからず存在し、また、吉田らによれば、兵庫県内の調査地点には大きな偏りが認められたという。

兵庫県の西端に位置する上郡町には著名な採集ポイントがないためか、吉田らの報告中にも、上郡町からのムシヒキアブの記録は皆無であった。筆者は、自身の居住する上郡町でムシヒキアブを重点的に調査した結果、以下に示す 21 種を確認することができた。しかも、そのうち 4 種 (うち 2 種は未記載種) は兵庫県の記録のない種であることがわかった。これにより、上郡町におけるムシヒキアブ相は、ほぼ解明されたものと思われる。

さらに兵庫県未記録の別の 1 種を宍粟市で採集しているため、これも併せて報告しておきたい。以上を総合すると、兵庫県のムシヒキアブは 5 種追加されて、37 種 (うち未記載または国内未記録種は 3) となる。

以下に亜科別の採集記録を示すが、名称ならびに配列は、原則として日本昆虫目録に従った。上郡町内で採集 (確認) された記録の産地名では「上郡町」を省略した。従って単に「上郡」とある場合は上郡町上郡であることを示す。また「高田台」の記録は大貝 (2018) による。すべての試料は筆者が採集・標本保管している。

上郡町のムシヒキアブ科

イシアブ亜科 Laphrinae

1. イッシキイシアブ *Choerades issikii* (Matsumura, 1916)
小野豆; 2 ♂, 13.VII.2015. 1 ♂, 10.VIII.2015. 金出地; 1 ♂, 7.VII.2022.

比較的山地性の種と思われ、上郡町では平地部の産地は未知である。

2. ヒメキンイシアブ *Choerades japonicus* (Matsumura, 1931)
与井; 1 ♂, 9.VIII.2018. 小野豆; 1 ♂, 24.VIII.2015, 1 ♀, 2.IX.2015, 1 ♂, 20.VIII.2016, 1 ♀, 27.VIII.2018. 旭日; 1 ♀, 11.VIII.2018, 2 ♀, 13.VIII.2018, 1 ♀, 26.VIII.2019, 1 ♀, 17.VII.2022. 金出地; 1 ♂, 1 ♀, 27.IX.2021.

盛夏から初秋まで、上郡町の里山では最もよくみられるイシアブである。

3. コムライシアブ *Choerades komurae* (Matsumura, 1911)
与井; 1 ♀, 9.VIII.2018. 小野豆; 1 ♀, 5.V.2017. 旭日; 1 ♂, 17.VI.2021. 金出地; 1 ♂, 1 ♀, 27.V.2020.

平地から低山地で 5-6 月に記録が多いが、8 月にも採集されており、二化性であるのかもしれない。

4. クロスジイシアブ *Choerades nigrovittata* (Matsumura, 1916)

小野豆; 1 ♂, 12.IV.2022. 金出地; 1 ♂, 7.V.2022.

筆者は、この種を夏季のイシアブだとの先入観を持っていたが、手許の標本はすべて、他地域のものも含め、春季に得られたものである。胸背の黒条により、野外においても一見で同定可能である。

5. (ケブカトゲオイシアブ) *Choerades* sp. A (図 1)

与井新; 1 ♀, 2.VI.2017. 上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 2.V.2017, 1 ♂, 1 ♀, 8.V.2017, 1 ♂, 11.V.2017 (図 1a,b). 山野里; 1 ♂, 7.VI.2022. 白旗山; 1 ♂, 23.V.2021.

田川ら (2000) が愛媛県小田深山で記録した *Choerades* sp. 2, 及び、春沢ら (2003) が高知・愛媛の両県で記録し、♂ 第 7 腹背板の略図を示した *Choerades* sp. 3 (仮称, ケブカトゲオイシアブ) に該当する可能性が高い。春沢ら (2003) は、胸背と腹背の被毛が黄色系のものと白色のもの 2 型があるとしているが、上郡産の個体にもそれら両型が認められた。♂ は 4 例中 3 例、♀ は 3 例すべてが黄色型であった。

¹⁾ Hideo OGAI 兵庫県上郡町

これは兵庫県で初めて記録される種である。広葉樹の二次林を分けて進む明るい尾根道沿いの、地表からの高さ 2m ほどの樹梢で見られる場合が多い。

6. (トゲオイシアブ) *Choerades* sp. B (図 2)

旭日; 1 ♂, 11.VIII.2018 (図 2a,b) . 1 ♂, 1 ♀ 13.VIII.2018, 1 ♀, 13.VIII.2019. 野桑 白旗山登山路; 1 ♂, 3.VIII.2022.

田川ら (2000) が愛媛県小田深山で記録した *Choerades* sp. 1, 及び春沢ら (2003) が愛媛県内各地で記録し, ♂第 7 腹背板の略図を示した *Choerades* sp. 4 (仮称, トゲオイシアブ) に該当するものと想定される。

本種も兵庫県初記録になるが, 生息環境は前種と異なり, スギなどの植林地に沿った未舗装の小道で, 路面が常に湿潤である所の地表近くで見られた。

7. オオイシアブ *Laphria rufa* von Roder, 1887

西野山; 1 ♀, 23.V.2015. 小野豆; 1 ♂, 17.V.2019. 上郡 鈴の宮公園; 1 ♂, 8.V.2017, 1 ♂, 11.V.2017, 1 ♂, 6.VI.2017.

典型的な *rufa* は, 胸部と腹部の大半が赤褐色毛で被われるとされ, 上郡でも, この特徴を持つ標本が得られている。一方, 同所的に腹端部のみに赤褐色毛を有するものが採集されており, 従来このタイプには *Laphria mitsukurii* Coquillett, 1899 があてられることが多かった。しかし中間的な特徴を示す個体もしばしば得られるので,

少なくとも上郡町に棲息する *Laphria* は単一種と判断し, これを *rufa* とした。 *mitsukurii* は *rufa* のシノニムとされるべきものであろうと筆者は考えている。

8. カタナクチイシアブ *Mactea matsumurai* Hradsky et Geller-Grimm, 2003 (図 3)

岩木乙; 1 ♀, 2.VII.2022. 旭日; 1 ♂, 15.VIII.2022 (図 3).

兵庫県では初記録になるかと思われる。岡山県では 2019 年版の野生動植物目録で初めて収録されたが, 県南部で普通に見られるとされる。 *Choerades* 属の種とまぎらわしく地味なイシアブなので従来見過ごされる場合も多かったかも知れず, 今後は兵庫県でも南部の平地や低山地で新産地が発見されることが期待される。

9. トゲツヤイシアブ *Pogonosoma funebre* (Hermann, 1914)

金出地; 1 ♂, 9.IX.2022.

口吻の特異な形状から, トゲツヤヘラクチイシアブと称されることもある。上郡町と隣接する相生市, 佐用町からも記録されており, 数は多くないが広く分布していると推測される。

アシナガムシヒキ亜科 *Dasygogoninae*

10. アシナガムシヒキ *Molobratia japonica* (Bigot, 1878)

与井新; 1 ♂, 23.V.2015.

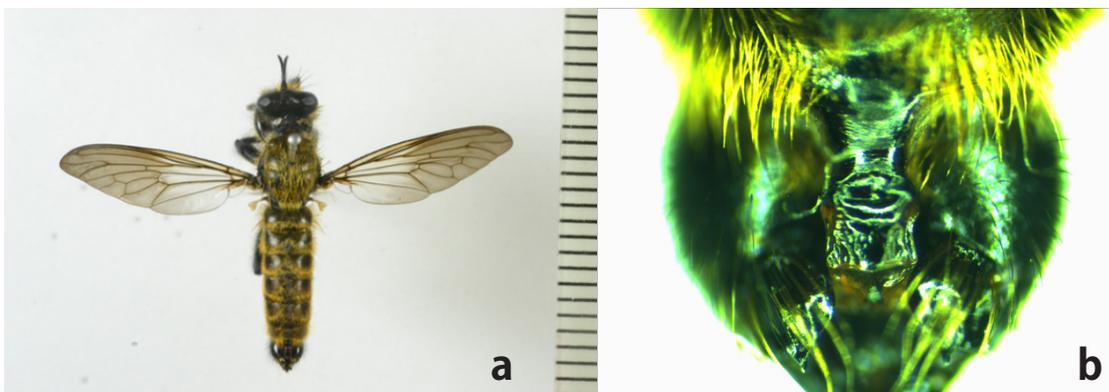


図 1: ケバコトゲオイシアブ♂. a 全形 (背面), b 腹部末端 (背面).

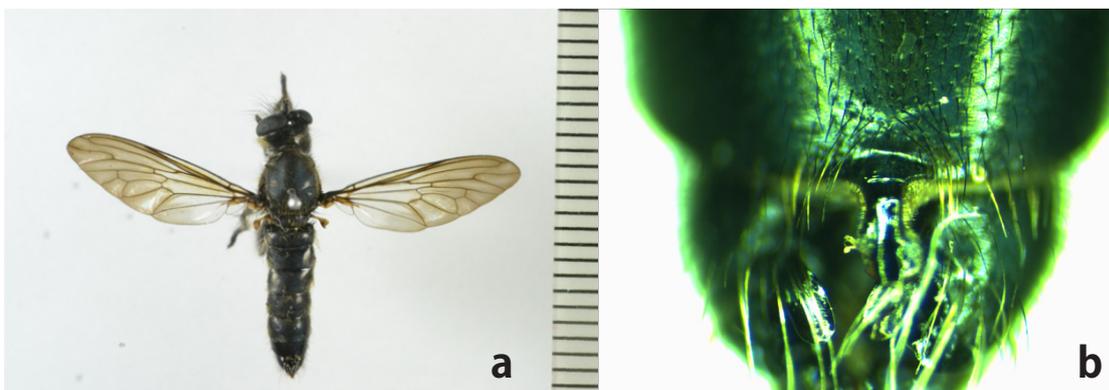


図 2: トゲオイシアブ♂. a 全形 (背面), b 腹部末端 (背面).



図3: カタナクチイシアブ♂. 全形 (背面)



図4: ホソムシヒキ♂. 全形 (背面).



図5: オタネガワイシアブ♂. 全形 (背面).

県内では記録の乏しい種であるようだが、筆者も上郡町では上記の1例を確認したのみである。ただ、標高850mの宍粟市千種町西河内でも筆者は1♀を採集しており(2.VIII.2022)、山地でも開けた土地では広く分布している可能性がある。

11. サッポロアシナガムシヒキ *Molobratia sapporensis* (Matsumura, 1916)

西野山; 1♂, 8.VI.2022.

前種の採集地点とは至近のポイントで得られた。本種の採集地は、古墳群のある小さな丘の東側の山裾で、前種はその西側の山裾であった。小さな丘の林内に近縁の両種が共存していることになり、非常に興味深い事例である。また通常山地に棲息するとされる本種が標高30m未満の西野山で得られたことも注目に値する。

Stenopogoninae

12. ハラボソムシヒキ *Dioctria nakanensis* Matsumura, 1916

与井; 1♀, 13.VI.2018, 上郡 鈴の宮公園; 1♀, 15.V.2021.

西日本では、本亜科で最も普通に見られる種である。上郡町では里山で得られている。

ホソムシヒキ亜科 Leptogastrinae

13. ホソムシヒキ *Leptogaster basilaris* Coquillett, 1898 (図4)

金出地; 1♀, 11.VII.2022

本種も兵庫県初記録になると思われる。樹高6~7mのシダレザクラの樹冠をすくって得られた。翅・触角や体色の特徴から本種であることを確認した。

なお、本亜科に属するものを他に少なくとも2種、上郡町内で採集しているが、既知種の♂の特徴とは合致せず、また本亜科の個体の多くは♀では同定不能である。このことは、いずれも未記載のケブカトゲオイシアブとトゲオイシアブを上郡産として今回報告することと矛盾するようだが、本亜科のこれら不明種を上郡のムシヒキアブ相の成員にカウントすることは、現時点では避けておきたい。

クシヒゲムシヒキ亜科 Ommatiinae

14. (アオメアブ) *Cophinopoda oldroydi* Tsacas et Artigas, 1994

高田台; 1♀, 31.VII.2005, 1♀, 2.VII.2006, 1♂, 28.VII.2007. 金出地; 1♂, 22.VII.2020.

日本昆虫目録では、日本本土域のものに表記の学名を適用し、従来その学名として用いられてきた *Cophinopoda chinensis* (Fabricius, 1794) は国内では琉球列島産のものに限定されるとした。しかし、沖縄本島産の標本(筆者蔵)と比較して、その相違は軽微であり、*oldroydi* を独立種とする根拠は乏しいように思われる。また、両者を別種とする場合でも、松村(1916)以来の扱いに従い、和名アオメアブは本土産のものに当てるのが正しい措置ではないだろうか。上郡では千種川とその支流域を中心に、河川敷などで普通に見られる。

シオヤアブ亜科 Apoelinae

15. シオヤアブ *Promachus yesonicus* Bigot, 1887

高田台; 1♂, 28.VI.2003, 1♀, 24.VIII.2003, 1♀, 16.VII.2005, 1♀, 2.VII.2006, 1♂ 1♀, 17.VI.2016. 金出地; 1♂ 1♀, 18.VII.2020.

日本に棲息する Diptera 中では、最も獯猛なハンターではないかと思われる。筆者は沖縄本島で同種の♂を捕食する本種♂を見たことがある。

ムシヒキアブ亜科 Asillinae

16. トラフムシヒキ *Astochia virgatipes* (Coquillett, 1898)

与井新 千種川河川敷; 1 ♀, 23.VIII.2022. 上郡 鞍居川河川敷; 1 ♂, 8.VII.2020.

2例はともに、オニグルミの木陰に繁茂するササ類をテリトリーとしていた。本属の種は、その発生に河川や海浜の砂地を要求するものと思われるが、そのような環境の消失にともない、全国的に減少傾向の強い種である。本種は上郡でも、かつては広く分布していた可能性が高いが、2009年の水害後に千種川が大規模な河川改修を受けた結果、壊滅的な影響を受けたと思われる。今後の動向を注視したい。

17. チャイロムシヒキ *Eutolmus brevistylus* (Coquillett, 1898)

高田台; 2 ♀, 29.VI.2003, 1 ♀, 3.VII.2004, 1 ♂, 23.VI.2007.

必ずしも普通に見られる種ではないが、筆者の自宅では、しばしば採集された。

18. ウスグロムシヒキ *Eutolmus rufiburbis* (Meigen, 1820)

高田台 古墳公園; 1 ♀, 8.VII.2018. 与井 北部; 1 ♀, 20.VII.2020. 小野豆; 1 ♀, 13.VII.2015.

同属の *brevistylus* とは、脛節とふ節が黒いこと、体毛の褐色味が乏しい点などで区別される。

19. サキグロムシヒキ *Machimus scutellaris* (Coquillett, 1898)

小野豆; 1 ♀, 13.VII.2015. 旭日; 1 ♀, 13.VIII.2019. 行頭; 1 ♂, 1.VII.2020. 与井; 1 ♀, 21.VII.2021.

やや山地で見られ、平地では少ない。

20. ナミマガリケムシヒキ *Neoitamus angusticornis* (Loew, 1858)

高田台; 1 ♀, 5.V.2003, 1 ♀, 10.V.2003, 1 ♂, 30.IV.2004, 1 ♀, 6.VI.2004, 1 ♂, 27.V.2006. 与井新; 1 ♀, 19.V.2018.

同属の種は、未記載種も含め、国内から多く報告されている。上郡産の個体は、記録に残していない多数を検したが、これまで確認したものは、すべて本種であった。

21. ヒサマツムシヒキ *Tolmerus hisamatsui* Tagawa, 1981

高田台; 1 ♀, 28.VIII.2004, 1 ♀, 12.IX.2015. 小野豆; 1 ♂ 3 ♀, 15.VIII.2015, 1 ♂, 14.IX.2015, 1 ♂, 7.X.2015. 金出地; 1 ♂ 3 ♀, 5.IX.2021.

西日本では平地から山地まで普通に見られ、盛夏に出現して秋半ばまで活動する。晩秋に現れる *Grypocotonus* 属のいない上郡町で、本種は最も遅くまで見られるムシヒキアブである。必ず頭部を腹端より下げぎみにして静止することがユニークな特徴と思われる。

宍粟市であらたに記録されたムシヒキアブ科

以上のほか、吉田ら (2009) に記録されていない下記の種を、筆者は宍粟市で採集しているので、併せて報告しておきたい。

イシアブ亜科 Laphrinae

オタネガワイシアブ *Andrenosoma otanegawana* (Matsumura, 1916) (図5)

宍粟市三室山; 2 ♀, 14.VII.2015, 1 ♂, 29.IX.2015 (図5).

口吻の特異な形状から、オタネガワヘラクチイシアブと呼ばれることもある、かなり小型で地味な種である。採集地は、いずれも標高 650m 地点で、同一の放置された廃材の堆積をテリトリーとして捕食活動を行っていた。

引用文献

- 春沢圭太郎・別府隆守, 2003. 四国からのイシアブ亜科の記録. はなあぶ. (15-1): 83-87.
- Haupt, A. and Azuma, S. 1998. Faunistic and Taxonomic Notes on Robber Flies (Diptera: Asilidae) from the Ryukyu Islands (Japan) with Descriptions of Three New Species, *Molobratia triangulata*, *Choerades yaeyamana* and *Merodontina silvatica*. Deutsche Entomologische Zeitschrift, 45: 33-42.
- Hradsky, M. and Geller-Grimm, F. 2002. Notes on the genus *Mactea* Richter & Mamaev, 1976 (Diptera: Asilidae) including the description of new species. Studia dipterologica, 9: 379-392.
- 松村松年, 1916. 新日本千蟲圖解. 警醒社, 東京. 474pp, 10 plates.
- Nagatomi, A., Imaizumi, H. and Nagatomi, H. 1989. Revision of *Molobratia* from Japan and Taiwan (Insecta, Diptera, Asilidae). Zoological Science, 6: 983-1003.
- Nagatomi, A., Ohishi, H. and Yang, D. 2002. Review of the genera *Leptogasterinae* (Diptera, Asilidae) through the literature. The Kagoshima University Museum Monographs (1): 1-111.
- 日本昆虫目録編集委員会 編. 2014. 日本昆虫目録 第8巻第1部. 日本昆虫学会, 東京. 539pp.
- 大貝秀雄. 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内1区画における昆虫相. 播磨長翅目研究センター, 上

郡. 94pp.

- 大石久志・田川勇治. 1997. 日本産マガリケムシヒキ属の再検討 (1). はなあぶ, (3): 15-37.
- 岡山県野生動植物調査検討会 編. 2020. 岡山県野生生物目録 2019. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山. 516pp.
- Tagawa, Y. 1981. Asilinae in Shikoku, Japan (Diptera: Asilidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society, 15(3,4): 187-213.
- 田川勇治・山本栄治. 2000. 小田深山およびその周辺のムシヒキアブ. 小田深山の自然 II. (山本森林生物研究所・小田深山の自然編集委員会 編). 愛媛県小田町. 小田町 (現内子町). 1256pp.
- Tsacas, L. and Artigas, J. N. 1994. Le genre *Cophinopoda* Hull, 1958 (Diptera: Asilidae) à répartition subcosmopolite inhabituelle. Annals de la Société Entomologique de France (N.S.). 30(1): 447-479.
- 吉田浩史・春沢圭太郎. 2009. 兵庫県の双翅目 3. ムシヒキアブ. はなあぶ, (28): 43-55.
- 吉田浩史・八木剛. 2012. 兵庫県の注目すべき双翅目. きべりはむし, (34-2): 12-25.